

# 第6期介護保険料は月額6591円の見込み 厚生常任委員会で市が算定状況を説明

市議会厚生常任委員会が25日開かれまし  
た。議題は第6期介護保険事業計画の策定に  
関連する第6期介護保険料の算定状況、「新  
しい総合事業メニュー(案)」についての2  
つです。市から報告を受け、審議が行われま  
した。

第6期介護保険料基準額については、1月  
に入って改定される見込みの介護報酬などい  
くつか未確定要素があることから、今後、若  
干の変更があるかもしれないということです  
が、第5期より66円増の6591円(月額)  
が示されました。これは11月7日現在の算定  
数値とこのことです。

この金額について、私からは、「この金額  
では全国的にまだ高いところにあると市民か  
ら(怒りの)声が上がると思う。この高い数  
字をもっと低い水準に落とすために一般会計  
からの繰り入れなどをするという政治的な議  
論と判断はなかったのか」と質問しました。  
これに対して栗本健康福祉部長は、「今回は



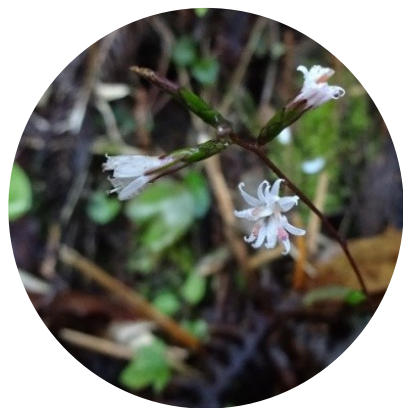
低所得者のた  
めに公費投入  
をすることに  
なっている。  
その他はしな  
いということ  
になった」と  
答弁しました  
。これでは  
関係市民は  
がっかりで  
す。第5期  
介護保険料  
基準額は6  
52

5円(月額)で全国で第3位でした。

## 「新しい総合事業」、 取組は慎重にすべきだ

「新しい総合事業」(正式名称は「新しい介  
護予防・日常生活支援総合事業」)につい  
て、私からは、「県内では来年度から取り組  
む自治体は少ないと聞いている。2年間現行  
の仕組みを継続できることになってい  
るの、もっと慎重に対応すべきだ」と主張しま  
した。これに対して、八木高齢者支援課長は  
「国に言われたからやるではなく、この度の  
制度改正を受け、関係のみなさんと協議し、  
上越市の独自の総合事業をつくっていこうと  
いうことになった」と答えました。また栗本  
部長も「当市では住民主体でやっていける組  
織がある」と答えていました。

「新しい総合事業」はこれまでの要介護認定  
で「要支援」と判定された人が受ける訪問・  
通所介護サービスを、介護予防給付対象から  
外し、ボランティアなどを活用して市町村が  
行う安上がりの事業です。厚生労働省のガイ  
ドライン(案)によれば、窓口の担当者が  
「要支援相当」と判断した人のうち、要介護  
認定を受けさせるのは訪問介護や福祉用具貸  
与サービスの対象者に限定するという動きも  
あります。そうしたなかで、私のところに届  
いている情報では県内自治体で来年4月から  
「新しい総合事業」に取り組む自治体は当市  
を含め4自治体です。市は上越市独自の総合  
事業にしていくという方針で来年4月から取  
り組む考えですが、それが現行の仕組みを継  
続していくことと比べてどう有利なのか違い  
を鮮明にしてほしかったですね。



【キッコウハグマ】キク  
科の多年草。漢字で、  
「亀甲白熊」と書いま  
す。杉木の縁で枯れたゼ  
ンマイの葉を撮ろうとし  
たときに見つけました。  
花は小さな白色で、裂け  
た感じになっています。  
この花に出合ったのは、  
私の人生でまだ2度目  
です。幸運でした。

## 通学定期運賃にたいする補助制度創設を

通学生に新  
たな負担を  
求めるのは  
教育の機会  
均等の観点  
から問題だ  
として補助  
制度の創設  
を求めています。



「在来線と地域のあり方を考える直  
江津・頸城の会」(仲田紀夫代表)  
は11月21日、村山市長に対して、通  
学定期旅客運賃にたいする補助制度  
の創設を求めて要請書を提出しまし  
た。  
北陸新幹線・並行在来線開業を前  
にJRから経営を引き継ぐえちごト  
キめき鉄道は、運賃を開業後5年間  
据え置くことにしていますが、他社  
にまたがって利用する場合は、それ  
ぞれの会社の初乗り運賃を精算する  
ため開業前の運賃よりも高くなりま  
す。そのため、えちごトキめき鉄道  
では、5年間を限度に乗り継ぎ割引  
運賃を設定して一定の緩和措置をと  
ることにしていますが、それでも平  
均で現行の1.3倍になります。  
会では、

はしづめ法一の  
活動レポート

No.1685 2014.11.30  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628 吉川有線 4867  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL http://www.hose1.jp/

ブログ  
「ホーセの見  
てある記」は  
← こちら

橋爪法一 検索



# 春よ来い

## 第三十三回

## 初雪の後に

頸城三山、鍋倉山、菱ヶ岳などが白くなりました。先日、板倉まで行ったついでに光ヶ原高原まで登ってきました。もちろん、歩いて行ったわけではありません。車で訪ねてきました。

この日、光ヶ原へ行きたくなくなったのは、自然の中にある美しい風景を撮りたいと思っただけです。じつは、私よりも先に初雪後の光ヶ原高原を訪ねた人がいました。日頃お世話になっている地元の人です。Kさんは見事な写真を毎日のように全国に発信されています。初雪が観測されたその日も高原に行き、妙高山をバックに雪がうっすらと積もった畑の風景や冷たい雪の中の草花などを撮り、発信されていました。

宮嶋小学校近くの交差点から達野を通って上関田、そして光ヶ原へと続く道を進みました。この日はあいにくの曇り空でしたが、あちこちで素敵な紅葉を見ることができました。特に達野から下関田の間と上関田の集落の最上部周辺が美しく、何枚も写真に撮りました。

上関田からは一気に標高が高くなります。道路脇の木々や草花を見ながら、ゆっくりと車を進めました。トキワイカリソウの葉が白っぽくなっています。春の早い段階から芽を出すヨモギがまだまだ元気です。ところどころに緑色のかたまりをつくっています。ひときわ目立つのはヤマウルシの葉です。赤くなつた葉がとてきれいでした。

かつて牧場であったところまで上がってから、カメラを手に持って車を降りました。積雪は二、三センチといたるところででしょうか。長靴を持参していなかったため、なるべく地面の固そうなところを歩きました。

最初に向かったのは新井さんや中島さんの畑です。今年のお盆直後に視察させてもらい、畑の美しさを確認していただきましたので、初雪後の様子を自分の目で見てみたいと思っっていました。

そば畑が広がったところへ行き、「うわー、いいなあ」と思いました。雪があるなかで、そばを刈り取った跡がスジ状になっていて、しかも大規模な美しい模様をつくりだしていたのです。目の前に広がる風景に圧倒され、何度もシャッターを切りました。この日撮った写真の中では、一番気に入ったものとなりました。

広い畑の中央部の道は車で走ってみました。本当は歩きたかったのですが、みぞれになつてきたので断念しました。この道には三十数年前、わが家の牛たちを放牧させてもらった時とまったく同じ風景が残っています。砂利道は車の轍（わだち）がずっと続いています。牧場へ牛たちをつれてきた時に軽トラの荷台に乗せてもらった記憶がふとよみがえりました。懐かしさに押されてここでも写真を撮りました。

光ヶ原高原の北側の道で、再び車を降りました。降りたのは、遠くにうっすらとではありましたが、尾神岳や黒姫山などが見えたからです。

高原からの道を下りていくときも道路脇の野の花が目に入りました。オトコエシはまだ小さな白い花を咲かせていました。花は散つたものの、花の形状が残っていて、明らかにシラネセンキュウだということがわかるものもありました。

車を二分ほど走らせたところで、みぞれがひどくなってきました。もう花を見るのも終わりだと思っていたら、黄色の花が私の目に飛び込んできました。メマツヨイグサです。茎の回りを冷たい雪に囲まれていながらも、花をちゃんと咲かせている、その姿に感動し、カメラを向けました。いよいよ冬、花たちに負けずに頑張りたいと思います。

## くびき野の特徴を生かしたまちづくりを

11月の議員勉強会は「北陸新幹線に関する取組について」がテーマでした。講師は私の高校時代の同級生で、東京電機大学教授の石塚正英さん。北陸新幹線開業後を見据えてど

んな取組をしていったらいいかについて学びました。今回の議員勉強会には議員や行政職員でもない2人の市民の方が参加しました。初めてのことで、議員が市民とともに学ぶ機会を持つというのはとてもいいことだと思います。

講演の中で、石塚さんはくびき野の特徴をしっかりとつかんでどう活かしていくべきかを語りました。くびき野の歴史風土について、石塚さんは鎌で切りつけて風を撃退する風の神儀礼や川上善兵衛が近代的なまちを作ろうとしたことなどをあげながら説明しました。石塚さんらしい切り口だと思いました。

石塚さんはくびき野の特徴を「野人性」と「助け合い」の2つにまとめました。道教的、土俗仏教的な生活風土や神仏虐待儀礼などをあげながら、「野人性」があることを語っていま



たが、住民の雨乞い地蔵の扱いが途中から正反対になるなんて知らなかったですね。

「助け合い」については東頸城一帯にあった江戸中期からの「貸鋤慣行」や「朝市」に言及していました。「もらい風呂」が広く行われていたことから、よくわかります。

最後に石塚さんは、衣食住の地産地消、善兵衛のまちづくりに見習う、文化の地産地消など7つのことを提案しましたが、新鮮でした。並行在来線に関しては、「駅の駅」構想や女性で賑わう場づくりなどを提案していました。おもしろい講演でしたね。

## 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	11月19日(水)	11月26日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.050	0.057
新井消防署	0.050	0.043
頸北消防署	0.060	0.063
頸南消防署	0.043	0.037
東頸消防署	0.053	0.050
高士分遣所	0.047	0.053
名立分遣所	0.043	0.053